

生活 育成すべき資質・能力を明らかにして単元を構想する過程について

生活科の目標の達成に向けた指導と評価の一体化を図るためには、育成すべき資質・能力を明らかにして単元の目標を定め、この目標を基に具体的な児童の姿として単元の評価規準を作成することが必要です。その上で、学習指導要領解説を参考に小単元の評価規準を作成し、実際の活動や対象に照らして指導と評価の計画を立案していくことが大切です。



みんな、学校の周りで見付けてきたどんぐりや松ぼっくりで遊ばしたそうにしていたなあ。自然に触れさせながら、自然の物を使って遊びを創る経験を増やしたいな。


このような教師の思いや児童の実態を、学習指導要領の指導事項に重ね合わせて捉え直すことで、育成を目指す資質・能力を明らかにすることができます。

事例 内容(5)「季節の変化と生活」と、内容(6)「自然や物を使った遊び」に基づいた単元を構想する過程

① 単元目標の作成 学習指導要領の指導事項を参考に、具体的な学習対象や活動に即して単元目標を作成する。

右の単元の目標例は、内容(5)と(6)を育成すべき資質・能力ごとに組み合わせ、構造的に表しています。
Aは単元で取り上げる具体的な活動や対象、
Bは思考力、判断力、表現力等の基礎、
Cは知識及び技能の基礎、
Dは学びに向かう力、人間性等を表します。

単元の目標例 ※実線箇所は内容(5)、波線箇所は内容(6)を基に作成しています。

 A秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、B秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりすることができ、C秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、D季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができる。

② 単元の評価規準の作成 育成すべき資質・能力を踏まえて作成する。(以下は主体的に学習に取り組む態度の例)

資質・能力のうち「学びに向かう力、人間性等」については、観点別学習状況を見取ることができる部分として「主体的に学習に取り組む態度」を観点とします。このとき、目指す資質・能力の文末(D参照)を「することができる」から「～しようとしている」に変えることで、評価規準として設定することができます。

主体的に学習に取り組む態度の評価規準
秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとしていたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。

③ 小単元の評価規準の作成 学習指導要領解説の、内容に関する資質・能力の記載事項を参考に作成する。

学習指導要領解説 内容(6)の記載例 (一部)
みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとするとは、自分と友達などとのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、毎日の生活を豊かにしていくことである。

(例)・友達のをさを取り入れたたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。
・みんなで遊ぶことで生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。 など

④ 指導と評価の計画の作成 単元目標の達成に必要な学習の流れを検討し、③をバランスよく配置しながら指導と評価の計画を作成する。その際、結果に至るまでの過程を重視すること、「四つの目」で見取することに配慮する。